

環境と  
コミュニケーションを  
考える会議。

小久保隆

環境音楽作曲家

×  
堅達京子

NHKチーフ・プロデューサー

×  
マエキタミヤコ

環境広告プランナー

×  
石川直樹

写真家



受け手の感覚も麻痺している!?

**堅達** 環境に関する事柄は非常に  
間口が広いですよ。生活そのもの  
なんだけれど、気づきにくい面が多  
く、難しい専門用語が使われると  
それだけで敬遠されることもある。  
私は主にドキュメンタリー番組の  
プロデューサーを務めるとともに、  
「地球エコ2009」や「SAVE  
THE FUTURE」などの環境  
キャンペーンを手掛けています。  
その中で心掛けているのは、多角  
的に伝えること。「SAVE THE  
FUTURE」では「科学者ライブ」  
という番組のようにバラエティ形式  
で、あるいはクイズ形式にして垣根  
を低くしたり、一方で、NHKスベ  
シヤルで大きな特集を組んだり、ま  
た一方では経済という観点からグリ

ーン・ニューデイルをテーマにし  
た番組を作ったりしています。こん  
なふうにごまごまな切り口でとらえ  
てもなお、広く伝えることの難しさ  
を痛感する日々です。

**小久保** 私は自然の音を録音して、  
その音を通して自分が感じる地球か  
らのメッセージを再構築して音に  
するような、そういう作曲をもう20  
年ほどやっています。これまで世界  
約50カ国のさまざまな土地を訪れて  
は、人工の音が一切ない天然自然の  
静けさ「ナチュラルクワイエット」  
の感覚を大切にしたいと思ってやっ  
てきました。けれど今、ナチュラル  
クワイエットを探すのは南の孤島で  
もサバンナでも非常に難しい。そう  
いうところを探しつつ、録音するど  
きは「自然の音と一体化しよう、地  
球からのメッセージを受け取るう」

環境の問題が複雑化し、一方で個人の価値観は多様化するいま、本当に伝わる環境コミュニケーションに必要な考え方は——？ 写真・音楽などのアート、広告・メディアでのクリエイティブの表現分野で活躍されている4人が、いま最適なコミュニケーションについて話し合った。

やさしさだけでは届かない

五感に響くコミ ュニケーション